

一年遅れのオリンピック・パラリンピック



校長 霜田泰徳

夏休みも終わり、いよいよ前期もあと1か月ほどとなりました。毎年思うことですが、たった42日間の夏休みとは言え久しぶりに生徒たちと顔を合わせると、その成長著しい姿には驚かされます。言うまでもなく、今徳島ではその生徒たちの生命と健康を脅かす“第5波”が急拡大しています。今度のウイルス株は、これまでより遥かに強い感染力があるとされているだけに、さらに自分にできる感染予防を徹底することが必要です。最近では中学生にもワクチン接種が進んでいますが、それはあくまでも重症化を防ぐためのものであるととらえ、油断することなく“新しい生活様式”の徹底を継続しましょう。

さて、今年是一年遅れのオリンピック・パラリンピックイヤー。新型コロナウイルスの感染が広がる中で、その開催には賛否両論ありましたが、全力で競技するアスリートの姿を見ると、感動とともに「開催できてよかった」という気持ちが湧いてきます。

中でも、私の印象に一番残っているのは、パラリンピック陸上・車いす400mに出場した伊藤智也選手です。免疫異常の難病が進行し一度は現役を引退していたのに、50歳も半ばになって再び挑戦するバイタリティーは、まさに“車いすの鉄人”。さらに私を引き付けたのは、東京パラリンピック直前になって、それまで取り組んできたクラスより障がいの軽いクラスで出場しなければならないという、自分にとって不利な判定を受けた時の伊藤さんの記者会見での言葉でした。

「これまでたくさんの方々を支えられて私はここにいます。まだレースも終わっていませんし、パラリンピックも終わっていません。ならば勇気を持って次のページをめくりに行く姿勢が自分には必要なのではないか。その結果、また自分にとってうれしくないページが来るかもわかりませんが、その時はチームのみんなと一緒に背負ってもらって、一緒に泣こうと思います。」

免疫異常の難病だからこそ、コロナ禍で大会直前までクラス判定を受けられなかったのに、そのことには触れずに勇気を持って前に進む姿に心打たれました。

伊藤さんが出場する予選の日。チャンネルを合わせ画面越しに応援しましたが、結果は同組7人中6着で予選落ち。それでも自己ベストを更新し、出場するはずだったクラスの銅メダル選手を上回るタイムでした。メダルには届かなかったけれど、息を切らしながらインタビューに答える伊藤さんの笑顔はととても輝いて見えました。

一生に何度も見ることでできない自国開催のオリンピック・パラリンピック。コロナ禍でどこにも出かけられなかった夏休みでしたが、いい思い出となりました。

9月の行事予定

- 9月 5日 (日) 箏曲部定期演奏会
- 6日 (月) ノー部活デー
- 12日 (日) 吹奏楽部定期演奏会
- 15日 (水) 期末テスト
- 16日 (木) 期末テスト・専門委員会
- 21日 (火) つどい・壮行会
- 24日 (金) 3年生遠足
- 25日 (土) 市新人大会
- 26日 (日) 市新人大会
- 29日 (水) 3年生進学説明会



10月の行事予定

- 10月 2日 (土) 市新人大会
- 3日 (日) 市新人大会
- 4日 (月) ノー部活デー
- 6日 (水) 3年生第1回基礎学力テスト
- 7日 (木) 前期終業式
- 8日 (金) 第1回英語検定
- 12日 (火) 後期始業式
- 18日 (月) 市駅伝大会・専門委員会
- 25日 (月) 駅伝試走
- 29日 (金) 文化祭(給食なし)

